

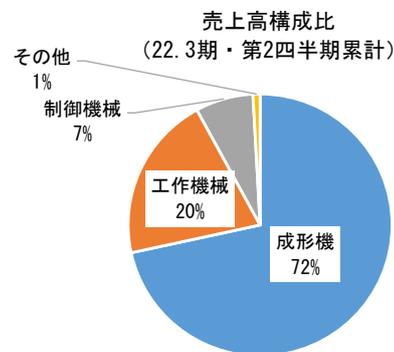
# 企業ニュース 芝浦機械

(東証1部 : 6104) <https://www.shibaura-machine.co.jp>

作成者: 奥村義弘

## 成形機、工作機械を主力とする総合機械メーカー

1938年、芝浦製作所（現東芝）の出資により、芝浦工作機械として創立。1961年、東芝機械に社名変更。2017年に東芝グループから離脱。2020年、現社名に変更。プラスチック原料を溶融して金型に流し込み成形する大型の成形機や工作機械など得意とする。中期経営計画「経営改革プラン」では、収益力の向上を主眼とした組織再編に取り組んでいる。成長分野に対応した投資を促進、資本効率の向上を目指した財務戦略の実行に取り組んでいる。最終年度（24.3期）の目標値として、売上高1,350億円、営業利益率8%、ROE 8.5%、配当性向40%めどなどを掲げる。



(出所) 芝浦機械資料よりCAM作成

## EV電池向けセパレータフィルム製造装置の受注が急拡大

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が537億円、前年同期比27%増、営業利益が24億円（前年同期は営業赤字3億円）。7-9月期の受注高は597億円と前年同期の180億円から急増した。中国でのEV用リチウム電池向けセパレータフィルム製造装置の大口受注が計上されたことがけん引している。

22.3期通期の会社計画は売上高が1,130億円、前期比22%増、営業利益が43億円、同11倍。期初計画を売上高で70億円、営業利益で16億円上方修正した。射出成形機は自動車向けや医療・容器向け需要が好調、押出成形機では中国でのEV用リチウム電池向けセパレータフィルム製造装置が増収に寄与する。半導体等の部材調達難・コスト上昇および物流の停滞・コスト増などを吸収し、大幅な損益改善を見込む。なお会社側は、中国の複数社からEV用リチウム電池向けセパレータフィルム製造装置について、100ラインの新規引き合いがあることを公表。同社の装置は高精度でフルライン・エンジニアリングを提供できる強みを持つ。生産能力を倍増する計画で、24年以降、同装置で年800億円から1,000億円の売上規模が継続するとみている。

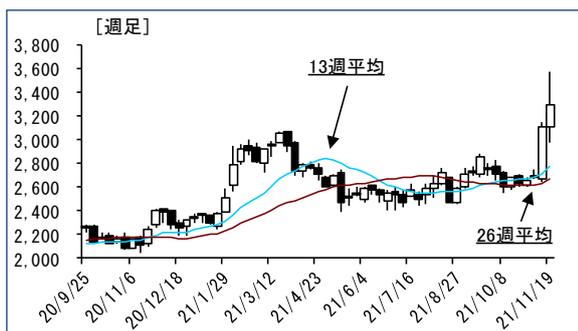
### [株価動向・投資判断]

EV用リチウム電池向けセパレータフィルム製造装置の受注急拡大が好感できる。中期的にその増産の確度が高まれば、損益インパクトは大きく、株価の支援材料となろう。

<6104 芝浦機 業績: 日本基準>

[ 今期予想の配当金は発行会社予想 ]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	116,761 (▲ 1)	3,529 (▲ 8)	3,825 (▲ 31)	7,338 ( 80)	304.1	記85.00
21.3	92,635 (▲ 21)	381 (▲ 89)	872 (▲ 77)	▲ 2,898 ( -)	▲ 120.1	特199.30
22.3 予	113,000 ( 22)	4,300 ( 1,026)	3,800 ( 335)	2,800 ( -)	115.9	75.00



[主要株価指標]

(売買単位 : 100株)

株価 (2021/11/19)	3,290 円
年初来高値 (高値日)	3,580 円 (21/11/18)
同 安値 (安値日)	2,244 円 (21/1/18)
予想 P E R (22.3 予)	28.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,331.1 円
P B R	0.99 倍
予想配当利回り	2.28 %
(1株当たり配当金年75.00円)	
ROE (21.3)	▲ 3.4 %
発行済み株式数	2,998 万株